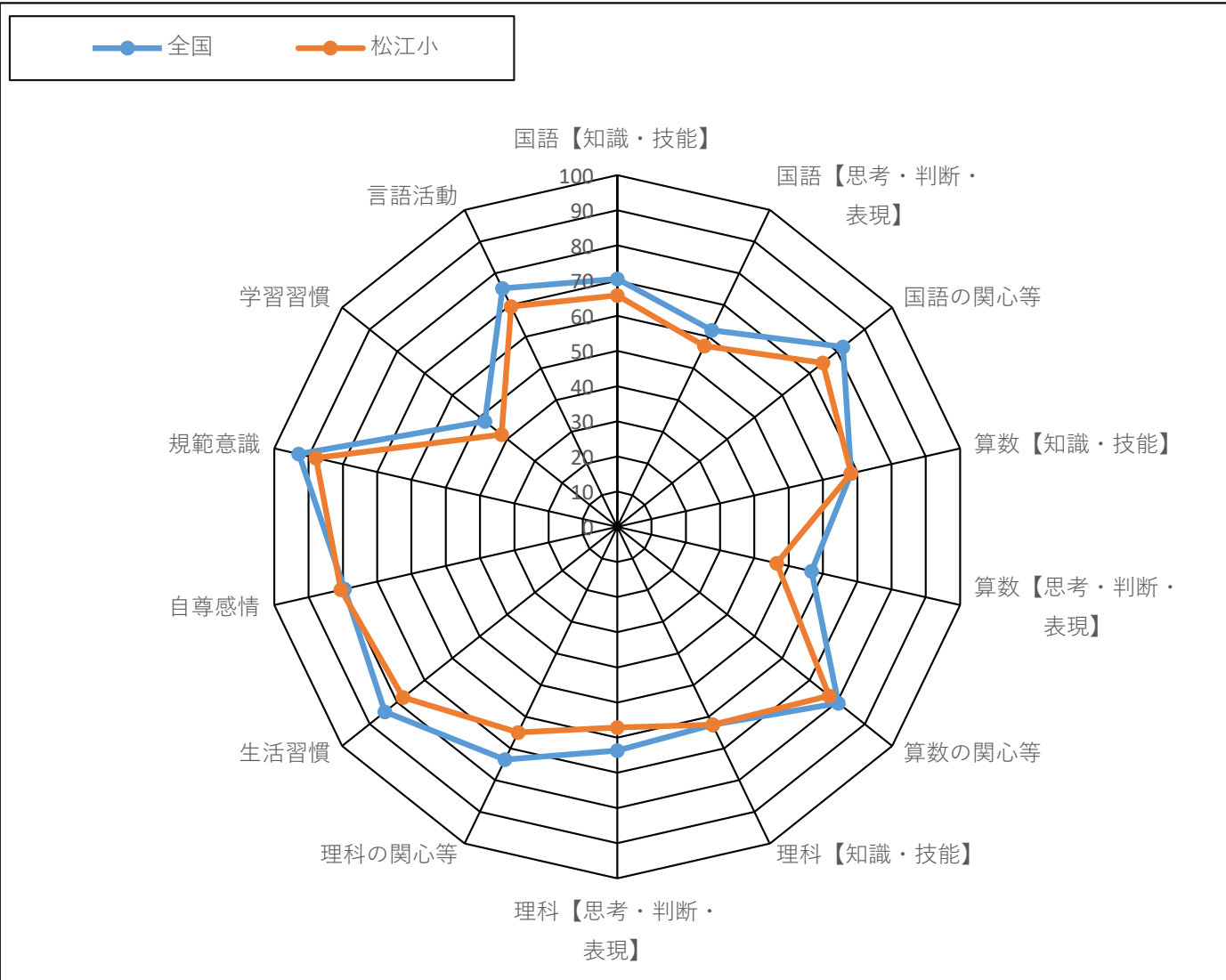


令和4年度全国学力・学習状況調査結果における課題分析表

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の本校の様子



【現状把握】

国語は、【知識・技能】【思考・判断・表現】共に全国平均を下回る結果となり、国語は特に登場人物の行動や気持ちを読み取る問題や文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えるなどの問題に課題があることがわかった。

算数・理科の【思考・判断・表現】は、全国平均と比べ低い結果となっているが、【知識・技能】は全国平均と同じ結果となった。昨年度の12月に行ったベネッセ学力テストでは、本校児童は、【知識・技能】が全国平均より低い結果であったが、昨年度3月より計算問題など【知識・技能】の向上に向けて取り組みを行い、その成果が表れたと考えられる。

【授業改善のポイント】

国語での「書く」力が低い結果から、目的を明確にして、何を誰に報告するかということを、理由や事例を挙げて、考えをまとめさせていく活動を取り入れることが大切であると考える。

算数では、少人数指導において、既習事項を正確に使えるように、ガイダンスや授業の導入を工夫し、どの習熟度別クラスでも課題解決を自分の力でできるようにしていく。

理科では、【関心】を高めるため、単元の始まりでの事象提示を工夫し、事象の出会いを大切にする授業を行っている。

どの教科においても【関心】が低いこと、また【学習習慣】の割合が低いことから、学習に対する興味・関心が低いと考えられる。学習単元の導入などで子供たちにその学びについての楽しさを感じさせ、必要感をもたせて、主体的に取り組める学習を作り上げていく必要がある。

【チャートの特徴】

算数・理科の【知識・技能】に関しては全国の平均と同じ数値となった。【思考・判断・表現】は、全国平均と比べ低い結果となった。国語は、【知識・技能】【思考・判断・表現】共に全国平均を下回る結果となった。

「児童質問紙」における児童の学習状況調査の結果から【自尊感情】は全国平均と同じ数値となった。一方で、【言語活動】【学習習慣】【生活習慣】に関しては、全国平均を下回る結果となった。

【家庭・地域への働きかけ】

保護者会、個人面談や健康生活カード、家庭学習キャンペーンでの機会を通して、早寝早起きなどの生活習慣や家庭学習時間の確保を含めた学習習慣の見直しを率先する